

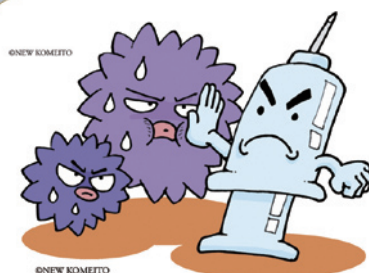
2011年 新春号

NEW KOMEI TO
公明党松下賢一郎
議会レポート発行責任者
藤沢市議会議員
松下賢一郎
TEL 0466-34-4570
matusita@tbb.t-com.ne.jp

「子宮頸がん・ヒブ・小児肺炎球菌」ワクチン公費助成へ!

藤沢市では、子宮頸がん・ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチンの3つの予防接種について、藤沢市公明党からの強い要望により、平成23年度から公費助成で実施する方針を示してきました。一方、国では公明党の強い働きかけにより、平成22年度補正予算の中で、これら3つのワクチンについて、市町村が実施する費用の1/2を国が負担する補正予算が成立しました。

藤沢市としては、国の補正予算成立を受け、女性と次代を担う子どもたちの命を守るという観点から、一刻も早く実施すべきと考え、これらに係わる経費について補正予算で対応し、当初の予定を前倒しして平成22年度中(平成23年3月)に開始する事になりました。



予防接種名	接種対象者	自己負担	効果
子宮頸がんワクチン	中学1年生～高校1年生に相当する年齢の女性	なし	子宮頸がんの予防
ヒブワクチン	0歳～4歳	なし	細菌性髄膜炎の予防
小児用肺炎球菌ワクチン	0歳～4歳	なし	細菌性髄膜炎の予防

ワクチン接種の実施内容

「子宮頸がんワクチン接種」の対象者は、中学1年生から高校1年生に相当する年齢の女性で、3回の接種が必要なことから、平成22年度中に接種した高校1年生は、平成23年度(高校2年生)においても公費助成の対象となります。接種は3回で(初回、初回から1ヶ月後、初回から半年後)

「ヒブワクチン接種」の接種は0歳～4歳児が対象で、生後2ヶ月～6ヶ月が4回接種、7ヶ月～11ヶ月が3回接種、1歳～4歳が1回接種となります。

「小児用肺炎球菌ワクチン」の接種は0歳～4歳児が対象で、生後2ヶ月～6ヶ月が4回接種、7ヶ月～11ヶ月が3回接種、1歳が2回、2歳～4歳が1回接種になります。

今後のスケジュールとしては、市議会で補正予算可決後、ワクチン接種を実施する医療機関等との調整を図り、その後、事業内容等について対象者への周知を行い、平成23年3月から事業開始の予定です。

子宮頸がんワクチン

子宮頸がんは、毎年15,000人が罹患し、3,500人が死亡するがんです。その発生には性的接触によるヒトパピローマウイルスの感染が大きく関わっていることが判明しており、その予防には、早い段階での子宮頸がんワクチンの接種が極めて有効とされてきましたが、子宮頸がんワクチンの接種には通常1万5千円程掛かることから公費助成が強く求められてきました。

ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチン

細菌性髄膜炎は、毎年1,000人が罹患し、約5%が死亡、約20%に重い障がいが残る疾病です。その原因の60%がインフルエンザ菌b型、30%が肺炎球菌とされており、インフルエンザ菌b型にはヒブワクチンが、肺炎球菌には、小児用肺炎球菌ワクチンの接種が有効とされていますが、ヒブワクチンの接種には通常8千円程度が、小児用肺炎球菌ワクチンには通常1万1千円程掛かることから公費助成が求められてきました。

